

# 明治大学文学部 2026 年度 社会人特別入学試験 日本史学専攻 解答例

---

## 【1】歴史用語説明

### ① 神仏習合

神仏習合とは、日本古来の神々への信仰と仏教信仰が融合した宗教現象である。仏教伝来後、神は仏や菩薩が姿を変えて現れたものとする本地垂迹説が広まり、神社に寺院が設けられる神宮寺などが成立した。神仏習合は中世まで広く定着したが、明治政府の神仏分離令によって大きく変化した。

### ② 寛政の改革

寛政の改革は、1787 年から老中松平定信が進めた幕府改革である。儉約の奨励や風紀の引き締めを行うとともに、囲米の制度や七分積金制度を設けて社会不安の解消を図った。また、朱子学を正学とする寛政異学の禁を出した。田沼時代の政策を修正し、幕府権威の回復を目指した改革であった。

### ③ 桜田門外の変

桜田門外の変は、1860 年に江戸城桜田門外で大老井伊直弼が水戸藩士らに暗殺された事件である。井伊直弼は日米修好通商条約の調印や安政の大獄を進めたため反発を受けていた。この事件は幕府の権威を大きく失墜させ、その後の尊王攘夷運動や幕末政局の激化につながった。

### ④ 承久の乱

承久の乱は、1221 年に後鳥羽上皇が鎌倉幕府打倒を目指して挙兵した戦乱である。幕府は北条義時を中心にこれを鎮圧し、上皇を隠岐へ配流した。乱後、幕府は京都に六波羅探題を設置して朝廷の監視を強化し、全国支配体制を確立した。これにより武家政権の優位が決定的となった。

## ⑤ 岩倉使節団

岩倉使節団は、1871年から1873年にかけて岩倉具視を大使として欧米諸国へ派遣された使節団である。条約改正の予備交渉を行うとともに、西洋の政治制度や産業、教育を視察した。大久保利通や木戸孝允らも参加し、その経験は明治政府の近代化政策に大きな影響を与えた。

## ⑥ 藤原氏

藤原氏は中臣鎌足を祖とする有力貴族である。平安時代には天皇家との婚姻関係を利用して摂政・関白の地位を独占し、摂関政治を展開した。特に藤原道長・頼通の時代に最盛期を迎えたが、その後は院政の進展とともに政治的優位が次第に低下した。

## ⑦ 55年体制

55年体制とは、1955年に日本民主党と自由党が合同して自由民主党が成立し、左右両派の社会党が統一されたことで形成された政治体制である。以後、自民党が長期にわたり政権を維持し、日本社会党が主要野党となる構図が続いた。この体制は1993年の非自民連立政権成立によって大きく変化した。

## ⑧ 宗門改め

宗門改めとは、江戸幕府がキリスト教徒を取り締まるために行った宗教調査制度である。人々は特定の寺院に所属することを義務づけられ、寺請制度によって檀家として登録された。これによりキリスト教の禁止を徹底するとともに、住民統制の仕組みとしても機能した。

## ⑨ 勤労働員

勤労働員とは、日中戦争から太平洋戦争期にかけて、戦争遂行のため学生や女性を含む国民を工場や軍需産業へ動員した制度である。国家総動員法などを背景に実施され、生産力確保に利用された。戦況悪化に伴って動員は拡大し、国民生活や教育にも大きな影響を及ぼした。

## ⑩ 倭寇

倭寇とは、中世から近世初頭にかけて東アジア海域で活動した海上集団である。前期倭寇は日本人を中心として朝鮮や中国沿岸で活動したが、16世紀の後期倭寇には中国人やポルトガル人なども含まれていた。東アジアの貿易や国際関係に大きな影響を与えた存在である。

### 解答のポイント

- ・選択した用語について、時代・背景・内容を明確に説明する。
- ・歴史用語の定義だけでなく、その歴史的意義や影響に触れる。
- ・二つの用語をそれぞれ独立して簡潔かつ正確に記述する。

### 解答作成にあたって

選択した二つの歴史用語について、その内容と歴史的意義が伝わるように説明することが求められます。

## 【2】日本史を学びたい理由

### 解答のポイント

- ・日本史を学びたい理由を具体的に示す。
- ・関心を持っている時代やテーマに言及する。
- ・その時代やテーマに興味を持った背景を説明する。
- ・大学でどのような学びや研究を行いたいのかに触れる。

### 解答作成にあたって

自身の関心や問題意識を具体的に示しながら、日本史を学ぶ目的と今後の学修への展望を論述することが求められます。